

合 計			三 患者費		二 財產管理費	
			一 患者費		四 修繕費	
	一 材料費				一 修繕費	
	六、一、二、七、七	五、三、三、四、四	五、三、三、四、四	五、三、三、四、四	七、九、三、三	七、九、三、三
					院內各所修繕費	
		器具、機械、藥品、備品、其他諸材料 其他價格騰貴ニヨル不足額				

昭和十六年度常用部歳入歳出豫算追加ノ件

昭和十六年度常用部歳入歳出豫算各追加額ヲ壹萬九百八拾九圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第一款 本部收入 金千九拾九圓

第一項 年釀金 金千九拾九圓

第二款 支部收入 金九千八百九拾圓

第一項 交付金 金九千八百九拾圓

合計金壹萬九百八拾九圓

歳出經常部

第一款 本部費 金千九拾九圓

第二項 資金移積 金千九拾九圓

第三款 支部費 金九千八百九拾圓

第二項	救護費	金四千貳百五拾貳圓
第三項	保健費	金千參百參拾八圓
第七項	社員費	金四千參百圓

合計金壹萬九百八拾九圓

以上追加に伴フ基金部豫算ハ別紙明細書ニ依リ整理ス

右常議會ニ提出ス

昭和十六年十一月

社長公爵 徳川 圀 順

理由

香川支部ニ於テ臨時看護婦生徒ノ養成及戰時救護材料ノ整備等救護費ニ増費ヲ要スルモノアルト診療用自動車ヲ木炭車ニ改造シ又社員増募上募集費其ノ他ニ経費ヲ要スルヲ以テ年釀金ノ增收ヲ財源トシ豫算ヲ追加セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十六年度常用部歳入歳出豫算追加明細書

歳入經常部

科	目	項	目	目
一本部收入	一年	歳入金	一年	歳入金
二支部收入	一年	歳入金	一年	歳入金
合計	一年	歳入金	一年	歳入金
				追加豫算額
				備考

歳出經常部

科	目	項	目	目
本部費	一年	歳出金	一年	歳出金
				追加豫算額
				備考

增收見込額一〇九八九四二對之九割

追加豫算額

備考

備考

						二支部費					
		三保健費				二救護費		一救護費		三資積金	
		四診療費		二救護材料費		一救護員費		一資積金			
二巡診療費		一材料費		四雜費		一養成費		三救護準備資金移積			
一三三八	一三三八	一三三八	一三四〇	一二四〇	三七四	二六三八	三〇一二	四二五二	九八九〇	一〇九九	一〇九九
自動車改造費		戰時救護材料費		臨時看護婦養成費							

昭和十六年度基金部歳入歳出豫算追加明細書

歳入

合計	款		追加豫算額	備考
	科	項		
	二 救護準備 資金收入		一〇九九	
		三 移積金及雜入	一〇九九	
		一 移積金	一〇九九	
			一〇九九	

合計		七 社員賞
	一 募集及獎勵賞	四三〇
	二 委員部及分員賞	一八〇
	一 募集賞	一八〇
	一 委員部賞	一八〇
		一〇九九
		二五〇 交付金
		一〇九九
		募集諸賞

歳出

科	目	追加豫算額		備考
		一	二	
救護準備	三翌年度繰越金	一〇九九	一〇九九	
資金支出	一翌年度繰越金	一〇九九	一〇九九	
合計		一〇九九	一〇九九	

常用部豫算追加に伴い本豫算ヲ追加ス

昭和十六年度常用部歳入歳出豫算追加ノ件

昭和十六年度常用部歳入歳出豫算各追加額ヲ貳萬貳拾四圓ト定ム其

ノ款項ノ金額ニ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第一款 本部收入 金貳千貳圓

第三項 寄附金 金貳千貳圓

第二款 支部收入 金壹萬八千貳拾貳圓

第一項 交付金 金壹萬八千貳拾貳圓

合計 金貳萬貳拾四圓

歳出經常部

第一款 本部費 金貳千貳圓

第二項 資金移積 金貳千貳圓

第二款 支部費 金壹萬八千貳拾貳圓

- 第一項 事務費 金參千參百八圓
 - 第二項 救護費 金壹萬千參百參拾參圓
 - 第三項 宣傳費 金六百參拾圓
 - 第四項 社員費 金貳千五百五拾壹圓
 - 第五項 賤產管理費 金貳百圓
- 合計 金貳萬貳拾四圓

以上追加三件、基金部豫算、別紙明細書ニ依リ整理ス

右常議會ニ提出ス

昭和十六年十一月

社長公爵 徳川 圀順

理由

鹿兒島支部ニ於テ職員、退職及ヒ事務激增並物價騰貴、爲

事務費ニ増費ヲ要スルト救護看護婦生徒ノ養成人員増加シ
タルト救護班派遣ニ伴ヒ材料費ニ増費ヲ要スルト社会普及
宣傳、寄附金増募等ニ増費ヲ要スルヲ以テ指定寄附金
ノ增收ヲ財源トシ豫算ヲ追加セントス是レ本案ヲ提出ス
所以ナリ

文部費		事務費		一給與		三退職死亡給與		八諸傭給		二需用費		一移資積金		三移資積金	
一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二
印刷費	舟車馬賃	消耗品費	筆紙墨文具	常備資金	三移資積金	給與	退職死亡給與	諸傭給	需用費	給與	事務費	文部費	移資積金	移資積金	移資積金
四〇〇	七〇	一五〇	二四〇	二〇〇	二〇〇	二一三八	一五一一	六二七	一一七〇	三三〇八	一八〇二二	二〇〇二	二〇〇二	二〇〇二	二〇〇二
同	同	同	事務繁劇及物價騰貴 不足見上				書記一名退職給與金	臨時雇採用給與金							

二救護費

一救護員費

九雜費

一、三三三

同

一養成費

六二八〇

乙種及臨時看護婦生徒
養成諸費

四雜費

一〇二七

諸雜費

二救護材料費

四〇二六

戰時救護材料補充費

一材料費

四〇二六

大宣傳費

一宣傳費

六三〇

社員增募上宣傳事項增加
伴不足見以額

一諸給與

四五〇

二需用費

一八〇

同

七社員費

一募集及獎勵費

二五五一

二五五一

科目	款	項目	追加豫算額				備考
			一	二	三	四	
	三常備資金支出						
		三翌年度繰越金					
		一翌年度繰越金					
合計			二〇〇二	二〇〇二	二〇〇二	二〇〇二	

常用部豫算追加に伴い本豫算ヲ追加ス

昭和十六年度療養所特別會計歲入歲出豫算追加更正
昭和十六年度療養所特別會計歲入豫算追加額ヲ貳萬四千百八
四歳出豫算追加額ヲ貳萬九千五百拾八圓同更正額ヲ五千四百拾四圓
定ム其ノ款項ノ金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入臨時部

第四款 支部療養所收入 金貳萬四千百八圓 增額

第二項 不動産賣却代 金貳萬四千百八圓 同

合計金貳萬四千百八圓 同

歳出經常部

第五款 支部療養所費 金五千四百拾圓 減額

第三項 患者費 金五千四百拾圓 同

合計金五千四百拾圓 同

歳出臨時部

第四款 支部療養費 金貳萬九千五百拾八圓 增額

第一項 營繕費 金五千四百拾圓 同

第二項 綠替借償還 金貳萬四千百八圓 同

合計金貳萬九千五百拾八圓 同

差引總計金貳萬四千百八圓 同

右常議會ニ提出ス

昭和十六年十一月

社長公爵 徳川 圀 順

理由

鹿児島支部療養ニ於テ使用中ノ炊事場ハ狹隘ノ爲調理上不便尠カラザ、
ルヲ以テ之カ擴張ヲナシ又雜品格納用倉庫一棟ノ建築ヲ要スル等、外舊海
濱院敷地賣却代ハ支部資金綠替借償還ニ充ツル爲不動産賣却代ヲ賤
源トシ患者費豫算ヲ更正シ之ニ充當セントス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十六年度療養所特別會計歲入歲出豫算追加更正文

歲入臨時部

科	款	項	目	追加豫算額	備	考
合計	四 支部療養所 收入	三 不動產賣却代	一 土地賣却代	二四一。八	舊海濱院敷地賣却代	
				二四一。八		

歲出經常部

科	款	項	目	節	更正豫算額	備	考
五 支部 療養所費	三 患者費	一 患者費	一 材料費	△	△印減額		
				△	△	三四一。〇	
				△	△	三四一。〇	
				△	△	三〇〇。〇	

合計	歲出臨時部			追加豫算額	備考
	四炊事費	一食料費	二		
合計	二四一。	六四一。	二四一。	二四一。	
支療養所費部				二九五八	
一營繕費				五四一。	
二綠替借償還				四一。	炊事場改築費 一四〇。四 物置新設費 七〇。四 敷地內堤防修理費 六〇。四 穀金井工事其他 一四〇。四
支部資金				一三一。	諸設備費
綠替借償還				一。	諸雜費
支部資金				二四一。	
綠替借償還				二四一。	
合計				二四一。	
合計				二九五八	
合計				五四一。	
合計				四一。	
合計				一三一。	
合計				一。	
合計				二四一。	
合計				二四一。	

昭和十六年度病院特別會計歳入歳出豫算更正ノ件

昭和十六年度病院特別會計歳入豫算更正額ヲ五萬八百五拾圓、歳出豫算更正額ヲ壹萬七千圓ト定ム其ノ款項ノ金額ハ左ノ計算ニ據ル

歳入經常部

第三款 支部病院收入 金五萬八百五拾圓 減額

第五項 患者收入 金五萬八百五拾圓 同

合計金五萬八百五拾圓 同

歳入臨時部

第三款 支部病院收入 金五萬八百五拾圓 増額

第一項 基金部繰入金 金壹萬七千圓 同

第四項 繰替借 金參萬參千八百五拾圓 同

合計金五萬八百五拾圓 同

總計金増減ナシ

歳出經常部

第三款 支部病院費 金壹萬七千圓 減額

第二項 賦産管理費

金七千四百拾円

増額

第三項 患者費

金貳萬四千四百拾円

減額

合計金壹萬七千円

同

歳出臨時部

第三款 支部病院費

金壹萬七千円

増額

第一項 營繕費

金壹萬七千円

同

合計金壹萬七千円

同

總計金増減ナシ

以上更正に伴フ基金部豫算ハ別紙明細書ニ依リ整理ス

右常議會ニ提出ス

昭和十六年十一月

社長公爵

徳川 圀順

理由

群馬支部病院ニ於テ軍部患者收療停止ニ伴ヒ一般患者診療開始
ノ爲入院料等関係科目ノ更正ヲ支ト院内各所修繕ノ必要アリ
是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

昭和十六年度病院特別會計歳入歳出豫算 更正明細書

歳入經常部

科	款	項	目	更正豫算額 △印減額	備考
三支部病院收入		五患者收入		△ 五〇.八五 _四	
			一入院料	△ 五〇.八五 _〇	
合計				△ 五〇.八五 _〇	

歳入臨時部

科	款	項	目	更正豫算額 △印減額	備考
三支部病院收入		一基金部繰入金		一七〇.〇〇 _〇	
			一病院常備資金繰入	一七〇.〇〇 _〇	元本繰入
		四繰替借		三三.八五 _〇	

合計	三機關費	一機關費	四炊事費	一食料費	△	△	△	△	△
					三〇〇〇	三〇〇〇	一六九七	一六九七	一七〇〇

歲出臨時部

合計	三支部病院費	一營繕費	四修繕費	九雜費	更正豫算額	△印減額	備考
					一七〇〇	一七〇〇	病室其他塗裝及多儿張工事費 一〇〇六八四
					一六五〇	一六五〇	講堂寄宿舍模樣替其他 六四三二四
					五〇〇	五〇〇	諸雜費
					一七〇〇	一七〇〇	

陸書

副官ヨリ 恩賜濟生會理事長へ通牒案
財團

七月三十一日濟庶第五五二號ニ依リ申請相成タル首題ノ件ニ關シテ
ハ別紙寄附制當額ノ範圍内ニ於テ寄附金募集相成候モ差支へ無之候
ト御承相成度此段依命及通牒候也

追テ右寄附金ハ醸出會社ニ於テハ利益金處分又ハ原價外經費トシ
テ處理セシムル儀ト承知相成度爲念申添候

陸書第八五八五號

昭和六年十二月廿壹日



陸書

副官ヨリ 恩賜濟生會理事長へ通牒案

七月三十一日濟庶第五五二號ニ依リ申請相成タル首題ノ件ニ關シテ
ハ別紙寄附制當額ノ範圍内ニ於テ寄附金募集相成候モ差支ヘ無之候
ト御款承相成度此段依命及通牒候也

追テ右寄附金ハ釀出會社ニ於テハ利益金處分又ハ原價外經費トシ
テ處理セシムル儀ト承知相成度爲念申添候

陸書第八五八五號

昭和六年十二月廿壹日



寄附金募集ニ關スル件

十月十九日

医事課御中

監査



済生會對スル首題通牒中左ノ通り追加相成度

追テ右寄附金ハ釀出會社ニ於テハ利益金處分又ハ
原價外經費トシテ處理セシムル儀ト承知相成度爲念
申添候

陸軍

恩賜財團濟生會寄附金募集御賞額		寄附金御賞額	插	要
會社名	所在地			
中島飛行機(株)	東京市麴町區丸の内三ノ四	六〇〇〇		
立川飛行機(株)	同、一ノ六ノ一	三、五〇〇		
三菱重工(株)	同、二ノ四	三、〇〇〇		
川崎航空機工業(株)	兵庫縣明石郡林崎村和坂大坪	四、〇〇〇		
日立航空機(株)	東京市大森區入新井町一ノ一〇〇	三、五〇〇		
日本樂器製造(株)	濱松市中澤町二五〇	三、〇〇〇		
住友金屬工業(株)	大阪市此花區島屋町三七	二、五〇〇		
宮田製作所(株)	東京市蒲田區東大郷二九	一、〇〇〇		
神戶工場製作所(株)	東京市芝浦一ノ一	一、〇〇〇		
岡本工業(株)	名古屋市中区和區東郊通七ノ一五	三、〇〇〇		
東京機器工業(株)	東京市大森區入新井一ノ〇〇	一、〇〇〇		
國產電機(株)	同、豐島區高田南町二ノ七一七	一、〇〇〇		

日本ピストリング機	東京市芝區新橋町一七	二、五〇〇	
理研工業機	同、麹町區有樂町一ノ二	一、〇〇〇	
東洋ベアリング機	大阪市北區堂島通四ノ二	七〇〇〇	
大阪機工機	同、東淀川區豐崎西通 一ノ四	五〇〇〇	
大阪金屬工業機	堺市耳原町一、三一〇	一、〇〇〇	
日本特殊鋼機	東京市大森區大森一ノ六 四七五	六五〇〇	六〇二、六〇八
日本鋼管機	同、麹町區丸ノ内一ノ二	三、七〇〇	
機、日立製作所	同、麹町區丸ノ内二ノ二	四、〇〇〇	
古河電氣工業機	同、	一、〇〇〇	
機、日本アルミニウム	大阪市東淀川區宮原 四七二	一、〇〇〇	
機、田中計器製作所	東京市大森區大森三ノ三 六二	一、〇〇〇	
東京航空計器機	川崎市木日二二〇〇	二、〇〇〇	
日本エヤーブレーキ機	神戸市葺合區脇濱町 三ノ二〇五八	一、五〇〇	
機、小西六	東京市日本橋區室町三ノ一	三、〇〇〇	

陸軍

川西機械製作所	神戸市林田區和田山通 一ノ五	三〇〇〇
保土ヶ谷化學工業	横濱市保土ヶ谷天眞町	二〇〇〇
旭硝子	東京市麹町區丸ノ内二ノ六	七五〇〇
日本窒素肥料	大阪市北區宗室町一	六〇〇〇
日本火工	東京市京橋區室町一ノ七 味ノ素ビル	三、五〇〇
特殊製鋼	同 日本橋區通一ノ三二一	五〇〇〇
關東製鋼	同 神戶區丸ノ内一ノ六 ノ一海上ビル	二、〇〇〇
昭和特殊製鋼	横濱市鶴見區生麥町神明 町	一、五〇〇
日本電解製鐵所	同 潮田町 二七四八	一、〇〇〇
大同製鋼	名古屋市南區星崎町高橋 町	六、五〇〇
東北特殊鋼	仙臺市長町字東臺北	一、〇〇〇
日本高周波重工業	京城府黃金町二ノ九ノ一	六〇〇〇
日本砂鐵鋼業	大阪市東區備後町二ノ五 六	三、五〇〇
日本曹達	東京市麹町區丸ノ内三ノ八	七、〇〇〇

(株)日本製鋼所	東京市麹町區丸の内一ノ二	九〇〇〇
(株)神戸製鋼所	神戸市葺合區脇濱町一ノ三	一五〇〇〇
山陽製鋼(株)	大阪市西區立賣堀北通二ノ三	一、〇〇〇
大阪金屋工業(株)	同 西區區中	六〇〇〇
壽重工業(株)	同 北區會根崎二ノ四八	三、〇〇〇
三寶伸銅工業(株)	堺市中生町四ノ三七	一、〇〇〇
日本光學工業(株)	東京市墨田區大井森前町五ノ四七	一、五〇〇
不二鐵鋼材工業(株)	富山市石登町三〇町七	一、〇〇〇
日本タイプライター(株)	東京市京橋區室町一ノ二	三、五〇〇
(株)園池製作所	同 品川區東大崎一ノ八五五	一、〇〇〇
大阪電氣(株)	大阪市住吉區北加賀屋町	三、〇〇〇
富士電機製造(株)	川崎市田邊新田一	四、〇〇〇
(株)東京計器製作所	東京市蒲田區東蒲田四一三	一、五〇〇
(株)横河電機製作所	東京府北多摩郡武蔵野町吉祥寺	一、〇〇〇

陸軍

横山工業(株)	東京市麹町區内幸町二入六	1,500
東洋工業(株)	廣島縣安藝郡府中町新地	2,000
日立兵器(株)	東京市品川區大井坂下 二七一七	1,500
日本精糖(株)	同 東大崎 二ノ三六三	六五〇〇
光洋精糖(株)	大阪市東成區中川町 四ノ六〇	二,五〇〇
日本電氣(株)	東京市芝區四國町二 34	五,000
東京電氣(株)	川崎市柳町一三〇〇	三,000
沖大電氣(株)	東京市麹町區丸ノ内 一六一一	三,000
日本無線電信(株)	東京府北多摩郡三鷹村上進 省	1,000
東洋通信機(株)	東京市芝區西應寺町 今古河	1,000
日本通信工業(株)	川崎市北見方二六〇	1,500
明電會	東京市品川區大崎町二七六	三,000
服部時計店	同 京橋區銀座四ノ二	四〇〇〇
吉田時計店	同 下谷區元黒門町一二	1,000

中 央 工 業 機 械	東 京 市 京 橋 區 木 挽 町 三ノ一四	一、五〇〇	
日 產 自 動 車 機 械	橫 濱 市 神 奈 川 區 家 寶 町	三、五〇〇	
豐 田 式 織 機 機 械	名 古 屋 市 京 橋 區 島 崎 町 一	一、五〇〇	
豐 田 自 動 織 機 機 械	愛 知 縣 碧 海 郡 刈 谷 町	一、五〇〇	
金 城 擊 岩 機 械 機 械	名 古 屋 市 南 區 江 戶 町 三ノ三	四、五〇〇	
鈴 木 式 織 機 機 械	濱 松 市 相 生 町 四 三 三	一、〇〇〇	
大 阪 機 械 製 作 所 機 械	大 阪 市 西 淀 川 區 佃 町 二 六 八	三、五〇〇	
小 松 製 作 所 機 械	小 松 市 八 日 市 町 地 方 五	五、五〇〇	
汽 車 製 造 機 械	東 京 市 麩 町 區 丸 內 丸 比 呂	三、五〇〇	
久 保 田 鐵 工 所 機 械	大 阪 市 浪 速 區 船 出 町 二	八、五〇〇	
島 津 製 作 所 機 械	京 都 市 中 京 區 河 原 町 三 條	四、〇〇〇	
大 阪 製 鋼 造 機 械 機 械	大 阪 市 此 花 區 四 貫 島 笹 塚 町	三、〇〇〇	
大 阪 機 工 機 械	大 阪 市 東 淀 川 區 豐 崎 西 通 一 ノ 四	四、〇〇〇	
松 下 電 機 機 械	大 阪 府 北 河 內 郡 門 真 町 一 六	五、〇〇〇	

陸軍

三井鑛山三池製作所	東京市日本橋區室町二ノ一	一八〇〇〇
松下金屬株式	大阪府北河内郡三郷町高瀬	五〇〇
正田飛行機製作	東京府北多摩郡三鷹町上通雀	五〇〇
池貝鐵工所	東京市麴町區有樂町一ノ二	三、五〇〇
池貝自動車株式	東京市麴町區有樂町一ノ二	一、五〇〇
トヨタ自動車工業株式	愛知縣西加光郡舉母町下市場	一、五〇〇
川崎車輛株式	神戸市林田區和田出通一ノ六	二、五〇〇
梅鉢車輛株式	大阪府泉北郡鳳町長承寺	一、〇〇〇
東京鋳工所	東京市品川區東大崎一ノ八五	一、五〇〇
自動車鑄物株式	横濱市鶴見區江ヶ崎四〇町五	一、〇〇〇
プレス工業株式	川崎市鹽濱町一	一、〇〇〇
新潟鐵工所	東京市麴町區丸ノ内三ノ四	四、〇〇〇
東京自動車工業株式	同 品川區東品川五ノ六一	四、〇〇〇
日本鑄造株式	同 麴町區丸ノ内六ノ二	一、〇〇〇

日本鋸工機	川崎市田邊新田字竹ノ木	三〇〇〇
三菱鋼材機	東京市城東區大島町 六二二〇	二五〇〇
日本特殊鋼材機	同 麴町區內幸町二ノ三	一〇〇〇
日本窒素肥料機	大阪市北區宗是町一	二二〇〇〇
住友化學工業機	同 東區北濱五ノ二二	四〇〇〇
朝鮮窒素肥料機	朝鮮咸鏡南道興南邑湖里 名古屋市東區左端町 二ノ一二ノ一	九五〇〇
矢作水力機	東京市日本橋區室町 二ノ一ノ一	五〇〇〇
東洋高壓工業機	宇部市小串町一九七八	五五〇〇
宇部窒素工業機	東京市芝區田村町一ノ二	三〇〇〇
日産化學工業機	同 京橋區室町一ノ七	一三五〇〇
昭和電工機	同 麴町區有樂町三信ビル	九五〇〇
雷氮化學工業機	大阪市此花區春日出町 二七八ノ三	五〇〇〇
日本染料製造機	東京市麴町區丸ノ内海士 ビル	四五〇〇
帝國染料製造機		一〇〇〇

陸軍

日本曹達院	同	大手町二八七	三、五〇〇
旭ペンベルグ絹絲	大阪府北區宗是町一		三、五〇〇
大日本セルロイド	堺市七道西町二一七		三、〇〇〇
朝鮮空素火藥	朝鮮咸鏡南道咸州興南郡興南邑		一、〇〇〇
大阪鐵工所	大阪府南區長堀橋筋		八、〇〇〇
東洋紡績	同 北區堂島通二ノ八		一、八〇〇
帝國製麻	東京市日本橋區安町二ノ二		三、五〇〇
東京麻絲	同 本町一ノ二ノ二		二、〇〇〇
秋元皮革	同 向島區吾妻町四ノ七九		一、〇〇〇
天滿織物	大阪府東區毛馬町一〇三ノ一		三、〇〇〇
和歌山紡績	和歌山府傳法橋通南之町一		一、〇〇〇
出雲製織	島根縣鏡川郡今市町		三、五〇〇
正太織	岡山縣都窪郡茶屋町新田		一、五〇〇
大阪製麻	尼崎市長州字大門一ノ二		一、〇〇〇

小泉製麻(株)	神戸市灘區新在家町中町一ノ二	二、五〇〇
大和川築工所(株)	堺市道里小野町一ノ二五	六、五〇〇
福助足袋(株)	同 安井町二ノ五〇	四、〇〇〇
東洋麻絲紡績(株)	大阪府泉南郡貝塚町津田 兵庫縣赤穂郡相生町相生	一、五〇〇
播磨造船所(株)	尼夕崎市長洲宇治京三	一、〇〇〇
山岡内燃機(株)	大阪市西淀川區大仁東	三、〇〇〇
發動機製造(株)	同 本町一ノ二ノ三	三、〇〇〇
玉造船所(株)	東京市日本橋區室町二ノ二	二、五〇〇
大日本製藥(株)	大阪市東區道修町三ノ二五	一、〇〇〇
野發商店(株)	同 三ノ一二	三、五〇〇
武田長兵衛商店(株)	同 二ノ二七	一、〇〇〇
三共株式會社	東京市日本橋區室町三ノ二	四、〇〇〇
日本毛織(株)	神戸市神戸區明石町四七	六、五〇〇
鐘淵紡績(株)	東京市向島區隅田町二ノ一六三	二〇、〇〇〇

陸軍

倉敷紡績(株)	倉敷市元町九七	五〇〇〇
大東紡織(株)	東京市日本橋區蠣殼町 二ノ一六	一、〇〇〇
山陽皮革(株)	姫路市東郷町四三	二、〇〇〇
羽田精機(株)	東京市蒲田區糺谷町 五ノ一二	一、〇〇〇
帝國製鋁(株)	大阪市港區七條通三ノ二五	一、五〇〇
日本內燃機(株)	東京市蒲田區古市町一七七	一、〇〇〇
日本氣化器(株)	同 品川區北品川五ノ四二八	一、五〇〇
三鷹航空工業(株)	東京府下北多摩郡三鷹村上 連雀	一、〇〇〇
佛寺 内 製作所	京都市伏見區深草永町 芳	六三、〇〇〇
日本パイプ製造(株)	東京市本所區堅川町三ノ二	一、〇〇〇
東京輕合金(株)	同大森區山王十一ノ二四四六	一、〇〇〇
富士航空計器(株)	同 蒲田區下丸子町三一二	一、〇〇〇
品川製作所	同 品川區北品川五ノ四二二	一、五〇〇
日本光機工業(株)	橫濱市鶴見區榮町通 四ノ八一	一、〇〇〇

日本合成化學(株)	大阪市東區伏見町二ノ一八四	1,000	
藤倉航空工業(株)	東京市在原區戶越町二六二一	1,000	
東京光學機械(株)	同板橋區志村本蓮沼二八〇	1,000	
安立立電氣(株)	同大塚區富士見町三九六	1,000	
東京無線電機(株)	同市蒲田區下丸子三三三二	1,000	
計	東京市芝區新橋三丁目	六三〇〇〇	
三興航空工業(株)	東京市日本橋區三丁目	1,000	
日本水産(株)	同品川區品川三丁目	1,500	
日本内務(株)	東京市西區新大塚一丁目	1,000	
帝國電機(株)	大阪市東區寺町三丁目	1,500	
藤田電機(株)	東京市荒川區谷中	1,000	
山崎電機(株)	同板橋區東板橋三丁目	2,000	
大東電機(株)	東京市日本橋區日本橋	1,000	
會津電機(株)	同市元町	500	

總
計

陸軍省 第一號 五三九

濟庶發第五五二號

昭和十六年七月三十一日

勸勵濟生會理事長 兒玉九一

陸軍大臣 東條英機 殿

寄附金募集ニ付申請

本會ハ明治四十四年五月 明治天皇ノ聖旨ヲ奉體シテ設立セラレ
爾來庶民階層ニ對スル醫療保護ノ事業ヲ施行スルコト茲ニ三十有
一年其ノ間 皇室ノ厚キ御恩眷ヲ辱ウシ又朝野各方面ノ熱誠ナル
支援ノ下ニ會運年ト共ニ進展ヲ見ルニ至リ候事ハ感激ニ堪ヘサル



恩賜 齊主會

所ニ御座候

借テ其ノ筋ノ調査スル所ニ依ルニ我カ國ニ於ケル保護扶掖ヲ要スル者ノ數ハ二百七十八萬餘人ト稱セラレ内特ニ救療ヲ要スル者ノ數ハ其ノ約八割ニ相當スル二百二十二萬二千餘人ニシテ是等ハ從來救護法母子保護法ノ運用ニ依リ市町村ニ於テ保護ヲ加フルノ外ハ公私ノ社會事業團體等ニ於テ保護（救療）セラレ來リ候ヘ共事實上保護救療セラル、モノ、數ハ要救療人員數ノ約四割ニ相當スル八十五萬七千餘人ニ過キズシテ他ハ救療ノ手及ハザルガ爲ニ已ムナク姑息ナル方法ニ依リテ加療スルノ外ナキ實情ニ置カレ居リタルコトハ國民保健ノ保持増進上並國民生活ノ安定上遺憾ニ堪ヘザリシ次第ニ御座候

此ノ間ニ於テ本會ハ各種ノ特設機關（現在病院、乳兒院及産院三十一診療所七十九出張診療所及診療班百十八合計二百二十八ノ外多數ノ巡回看護班）ヲ常設シテ直接ノ診療並養護ニ當ルノ外是等特設機關ナキ地方ニ對シテハ開業ノ醫師ニ診療ヲ委託スルノ方法ヲ執リテ専ラ救療ノコトニ當リ居リ候 其ノ外非常ノ事變災害等ノ際ニハ救護班ヲ編成派遣シ且ツ救護物品ヲ急送スル等ノ方法ニ依リテ救援ニ助力シ居リ殊ニ夫ノ關東大震災當時ニ於テ本會ハ基金ヨリ金五百萬圓ノ支出ヲ決議シ東京府ヲ中心トシ神奈川千葉ノ兩縣下ニ跨リ三十二ノ病院、診療所及産院ヲ急設シ五十ノ診療班及多數ノ巡回看護班ヲ設ケ前後十ヶ月間ニ涉リテ罹災者ノ救療ニ當リタルガ如キハ其ノ最モ顯著ナルモノニ有之又昭和七年度以來

政府ノ醫療救護事業ノ施行ヲ委託セラル、モノ等アリテ是等ヲ加ヘタル本會ノ取扱患者總數ハ昭和十四年度ニ於テ概數實人員六十五萬二千餘延人員一千百八十六萬八千餘此ノ經費總額三百八十餘萬圓本會創立以來今日迄ノ取扱患者概數ハ實人員八百七十餘萬延人員二億餘萬救療費支出額ハ四千七百萬圓ヲ超過致シ居リ候然レトモ之ヲ前記ノ要保護者數ニ對比スルニ尙甚ダ足ラサルモノアリ況ンヤ我國現下ノ情勢ヨリ之ヲ觀ルトキハ斯ノ方面ニ對スル施策ニ一層ノ充實徹底ヲ期スルコトノ緊要ナルハ多言ヲ要セザル所ト存候

偶々今回醫療保護法ノ制定公布ヲ見ルニ至リ少額收入其ノ他貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ助産ヲ受クルコト能ハザル者ニ弘ク

醫療助産ノ途ヲ開クコトトナリ同時ニ本會ハ原則トシテ市町村ト
共ニ醫療保護事業ノ中樞機關トセララルニ至リタルコトハ本會ノ
創立ノ由來ト其ノ目的トニ鑑ミ正ニ其ノ使命ニ合致スル所ニシテ
同時ニ又本會ノ責務ハ一段ノ重キヲ加フルニ至リタルヲ感ズル次
第二御座候

仍チ本會ニ於テハ政府ノ施策ニ應ジテ一層事業ノ擴充強化ヲ圖ル
爲昭和十六年度ヨリ十八年度ニ至ル三ヶ年度間ニ於テ救療事業ノ
資六百二十三萬餘圓ヲ廣ク全國ニ涉リテ募集スルコトトシ内昭和
十六年度ノ募集豫定額ヲ貳百拾萬圓トシ此ノ中六十三萬圓（募集
豫定額ノ三割）ヲ軍需工業ニ關係深キ工場、會社ヨリ爾餘ノ百四
十七萬圓（募集豫定額ノ七割）ハ其ノ他ノ銀行會社等ヨリ募集ス

ルコトニ致シ以テ國家ノ要望ト國民ノ期待トニ副ハンコトヲ期シ
居ル次第ニ御座候

就テハ右事情御洞察ノ上何卒特別ノ御詮議ヲ以テ軍指定ノ工場、
會社等ニ對シ寄附金募集ノ儀御許可相成度尙軍需ノ作業進捗並御
監督上ノ御都合モ可有之ト存シ候間本會カ昭和十六年度ニ於テ軍
指定ノ工場會社等ヨリ募集スヘキ前記ノ金額ニ對スル振り當テニ
關シテモ適當ナル御裁量相煩ハン度左記本會ノ沿革並事業實施ニ
關スル印刷物相添へ此段申請候也

記

(添附書類)

一、關濟生會志

一、同 救療患者統計（昭和十三年度）

一、同 特設診療機關一覽

一、同 要 錄

一、同 昭和十六年度歳入歳出豫算

一、同 昭和十四年度歳入歳出決算

賑濟生會寄附金新規募集計畫並說明書

本會ハ今般醫療保護法ノ制定ヲ機會ニ政府ノ施策ニ即應シテ一段ト事業ノ擴充強化ヲ圖ル爲此ノ際左記ニ依リ寄附金ノ新規募集ヲ行フモノトス。

一、目標 今般制定ニ係ル醫療保護法ハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ助産ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シ醫療券ヲ發行シテ醫療又ハ助産ヲ受ケシムルコト、ナリタリ。是レ從來救護法、母子保護法等ニ於テ貧困ノ爲生活スルコト能ハサル者ニシテ傷痕疾病又ハ助産ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ之カ扶助ノ方法トシテ醫療助産ノ途ヲ開キタリシヲ更ニ其ノ範圍ヲ

財團 海 生 會

強化擴張シタルモノナリ、而モ本會ハ將來醫療保護事業施行上ノ根幹トシテ醫療保護法所定ノ事業ヲ行フコトトナリタルヲ以テ本會ノ對象トナルヘキ者ノ數ハ之ニ伴レテ今後著シク増加スルコトトナルベキモ右ハ本會ノ沿革ト使命トニ鑑ミ寧ロ當然ノコト、謂フベク、而シテ今日迄各種ノ事情上不徹底ヲ免レサリシ庶民階層ニ對スル醫療保護方策カ醫療保護法ノ制定ニ依リテ茲ニ始メテ其ノ完璧ヲ期セラルヘク本會ハ亦之ニ力ヲ協セ以テ國家國民ノ要望ト期待トニ副ハンコトヲ圖ルハ國民保健ノ保持増進上並國力ノ增強發展上極メテ意義深キモノト信セラル。本會ハ茲ニ於テ此ノ際必要トスル資金中足ラサルトコロハ之ヲ寄附金ニ俟タントス。

三、募集金額 金六百二十三萬六千五百圓

四、募集地域 各道府縣

五、募集時期 自昭和十六年度 三ヶ年間
至同 十八年度

六、募集ノ方法 本部並地方支部ニ於テ資力營業狀態又ハ生活狀況等

ニ於テ適當ト認ムル個人又ハ會社等ニ對シ本會ノ沿革ト既往

ニ於ケル事業施行ノ狀況並本會今後ノ責務ノ重大ナルコトヲ

説明スル等十分ニ意ヲ悉クシテ有志ノ義心ニ懇フルモノトス

此ノ際新規ニ寄附金六百二十三萬餘圓ヲ募集

セントスル根據ニ付テ

其ノ筋ノ調査スル所ニ依レバ我カ國ニ於テ貧困ニシテ生活スルコ

ト能ハサル者ハ二百七十八萬餘人トセラレ又他ニ少額收入其ノ他生活ニ餘裕ナキ所謂生活困難ナル者ハ百三十七萬餘人アルヲ以テ此ノ兩者ヲ合算シタル四百十六萬二千餘人ハ事實上保護扶掖ヲ加フベキ人員ナリ。

而シテ今回制定セラレタル醫療保護法ハ此ノ事實上保護扶掖ヲ要スル四百十六萬餘人ニ對シ醫療又ハ助産ノ途ヲ開カントスルモノニシテ此ノ内要救療人員ハ三百三十二萬餘人（罹病率ハ要保護人員ノ七九八%）ト推算セラル。

然ルニ本會又ハ市町村其ノ他公私ノ社會事業團體ニ於テ救療セラレツ、アル者ハ右ノ内百四萬餘人（内本會救療人員六十萬二千餘人）ニシテ残りノ約二百二十八萬人ハ未救療狀態ニ置カレ居レリ。

而モ從來市町村其ノ他ノ公私ノ社會事業團體ニ於ケル救療狀況ヲ
觀ルニ今回醫療保護法カ制定實施セラレタリトスルモ俄カニ救療
人員ノ著増ヲ望ムコト能ハサルモノアリ。

仍テ本會ハ其ノ使命ニ鑑ミ將來要救療人員ノ三分ノ二程度迄ハ本
會ニ於テ救療センコトヲ企圖スルト同時ニ本會カ醫療保護機關ノ
根幹トシテ將來ノ活動ヲ期待セラレタルニ付テハ特設診療機關ノ
機能發揮上並診療施設ノ普及擴充ヲ緊要トスルニ依リ昭和十六年
度ヨリ同十八年度迄ノ間ニ於テ左記事業ヲ遂行センコトヲ期ス。

1 明治天皇ノ御聖德ヲ佩ビ奉ルヘキ適當ナル繪畫ヲ謹製シ其ノ
複製品ヲ全國本會特設診療機關（病院、診療所）ニ奉掲セシ

ムルコト

- 2 全國各道府縣中未ダ本會特設診療機關一ヶ所モ設置ナキ地方
(青森、秋田、茨城、岐阜、香川)及之アルモ縣廳所在地ニ
其ノ設置ナキ向(岩手、山形、栃木、埼玉、千葉、山梨、靜
岡、三重、奈良、廣島、鳥取、島根、德島、愛媛、佐賀、大
分、宮崎)ニ對シテハ病院又ハ診療所ヲ新設スルコト
- 3 未ダ訪問看護婦ヲ置カサル本會特設ノ病院、診療所一〇〇ヶ
所ニ對シテハ新ニ訪問看護婦一名宛配置スルコト
- 4 本會直營産院ノ規模狹少(現在五三床)ナルヲ以テ之ヲ擴充
(二〇〇床トス)スルト同時ニ之ニ産婆養成所ヲ附設スルコト
- 5 既設診療機關ノ擴充設備ノ改善等ヲ爲ス向ニ對シテハ之カ助
成ノ途ヲ講スルコト

昭和十六年度收支見込額

収入ノ部		摘要	
種目	金額	摘要	
基金及資金收入	七九一、三四八	基金利子收入	二六、八一四円
		同株式配當	四四、七九五〇円
		地方資金利子收入	七九、五八四円
		前中期ハ	
		一般會計診療收入	三九四、二一三円
		特別會計診療收入	二八八、〇五〇円
		ノ各半額	三四一、一三一円
		後中期ハ	
		第二種カード所屬(要救療人員一、四三七 六七〇人)本會救療人員ノ三分ノ二ヨリ	
		一日五錢(救療日數平均二十日)宛	
		第三種カード所屬(要救療人員一、〇九九 三〇五人)本會救療人員ヨリ一日十錢(
		救療日數平均二十日)宛ノ少額ヲ自辨セシム	
少額自辨其他診療收入	一、〇二六、二一八		

	御下賜金	國庫補助金	
	10000	1,618,541	
<p>第二種カード所屬本會助産人員ノ三分ノ二ヨリ助産一回一圓宛 第三種カード所屬本會助産人員ヨリ助産一回二圓宛ノ少額ヲ自辨セシム 此ノ收入(半年分) 545,799円 他 有償診療收入(半年分) 1,344,639円 服部報公會及東京府受託患者診療收入(半年分) 4,825円</p>		<p>前半期ハ定額補助金250000円計上 後半期ハ醫療及助産費(有償及受託診療費ヲ除ク)ヨリ少額自辨收入ヲ差引キタル本會純負擔額234,607円ノ十二分ノ七相當額236,854円計上</p>	<p>前半期ハ 道府縣補助金 235,873円 爾他団体補助金 8,560円</p>

地方費補助金	九八五五一一	後半期ハ 國庫補助金對象額ノ四分ノ一相當額 五八六一八円 他ニ爾他団体補助金 八、五六〇円
委託交付金	三〇〇〇〇〇	前半期 委託醫療救護費交付金 後半期 ナシ
經費補充積立金繰入	一、七五〇〇〇	
寄付金	三、一〇〇〇〇〇	
地方資金及地方經費繰入	三九〇〇〇	
其他ノ收入	一七八九九	雜收入其他收入
合計	七〇七、三五一七	

支出ノ部	種 目	事 務 費	金 額	摘 要
		救 療 費	四、六〇八、九六二	<p>本部及支部事務費</p> <p>前半期分 普通救療費 五三〇三五八円 指定救療費 一〇四七四四五円 後半期分 (醫療) 要救療人員三三二、五九六ニシテ内本會救療人員(要救療人員ノ三分ノ一相當數) 一、一〇七、一九九 右ニ對スル醫療費一人當平均五圓宛ノ積算額(半年分)ニ、七六、七九九八円 (助産) 要助産人員二、三三八七三ニシテ内本會助産員(要助産人員ノ三分ノ一相當數) 四一、二九一 右ニ對スル助産費一人當平均六圓宛、</p>

		算額(半年分) 有償診療 一三三八七三円 受託診療 一三四六三三円 四八二五円
委託醫療救護費	三〇九〇〇〇	前半期分 昭和十六年九月限り打切
看護婦養成所費	三一、〇三〇	
特設機關新設、擴充設備費	一、一五六、四五〇	東京府外十九府縣特設機關新設擴充設備費
創立三十周年記念式費	二五〇〇〇	本會創立三十周年記念式典費
明治天皇御聖德ニ關スル事業費	一〇〇〇〇	
訪問看護施設擴充費	三〇〇〇〇	
產院擴張並附屬產婆養成所新設費	一七〇〇〇〇	

經費補充積立金並地方 資金繰入	四八五四三九	次年度ノ年度當初數ヶ月間ノ支拂準 備金ニ充當
借入金償還	三三二〇	看護婦養成所建築費借入金利子
合 計	七〇七三三一七	

(備考)

昭和十六年度後半期ニ於テ特ニ考慮シタル事項左ノ如シ

一、醫療並助産本會取扱者ハ總要保護人員ノ三分ノ一ヲ見込タリ

而シテ其ノ保護ハ第一種乃至第三種カード階級各三分ノ一宛保

護スルノ方針ヲ執リタリ

二、受託診療ハ將來東京府委託患者ト服部報公會ノ委託患者ノミヲ

一應取扱フモノトシ昭和十五年度ノ実績ニテ計上シタリ

三 有償診療ハ特別會計ノ本年度當初豫算ニ計上シタル金額ヲ參酌

シ幾分ノ増額ヲ見込ミタル程度ニ之ヲ計上シタリ

四 受託診療費及有償診療費ハ其ノ收入ノ程度ニ於テ診療スルモノ

トシ收入ト支出トハ同額ニ計上シタリ

昭和十七年度收支見込額

収入ノ部	種目	金額	摘要
	基金及資金收入	七九一、三四八	基金及地方資金利子收入
	少額自辨其ノ他診療收入	一、九五八、三〇七	<p>第二種カード所屬本會救療人員ノ三分ノ二ヨリ一日五錢(救療日數平均二十日宛)</p> <p>第三種カード所屬本會救療人員ヨリ一日十錢(救療日數平均二十日)宛ノ少額ヲ自辨セシム</p> <p>第一種カード所屬本會助産ノ人員三分ノ二ヨリ助産一回壹圓宛</p> <p>第三種カード所屬本會助産人員ヨリ助産一回二圓宛ノ少額ヲ自辨セシム</p> <p>此ノ收入 一、六三七、三九九円</p> <p>他ニ</p> <p>有償診療收入 三一一、二五八円</p> <p>受託診療收入 九六五〇円</p>

御下賜金	40000	
國庫補助金	4,105,624	<p>醫療及助産費（有償及受託診療費ヲ除ク）ヨリ少額自辨收入ヲ差引キタル本會純負擔額 70,382,133円ノ十二分ノ七相當額</p>
地方費補助金	1,841,113	<p>國庫補助金對象額ノ四分ノ一相當額 一、七五九、五三三円 他二 爾他團體補助金 八、五六〇円</p>
經費補充積立金並地方資金繰入	707,105	
寄附金	2,146,000	
其他ノ收入	178,999	雜收入其他收入
合計	11,607,396	

支出ノ部	種目	金額	摘要
	事務費	二五三一一六	本部及支部事務費
	救療費	八九九六五二〇	<p>(醫療)</p> <p>要救療人員三二、五九六ニシテ本會救療人員公要 救療人員ノ二分ノ一相當數)一六六〇七九八 右ニ對スル醫療費一人當平均五圓宛ノ積算額 八三〇三九九〇円</p> <p>(助産)</p> <p>要助産人員二二、八七三ニシテ内本會助産人員(一) 要助産人員ノ二分ノ一相當數)六一九三七 右ニ對スル助産費一人當平均六圓ノ積算額 三七一、六二二円</p> <p>他二 有償診療 三一、二五八円 受託診療 九六五〇円</p>
看護婦養成所費		三、一〇三〇	

特設機關新設擴充 設 備 費	一、三六〇、四七八	大阪府外二十八府縣特設機關新設擴充設 備費
訪問看護施設擴充費	六〇〇〇〇	
產院擴張並附屬產婆 養成所新設費	一七三、一八四	
經費補充積立金並地 方資金編入	六九二、五四八	次年度ノ年度當初數ヶ月間ノ支拂準備金 ニ充當
借 入 金 償 還	四〇、五二〇	芝病院及看護婦養成所建築費借入金償還 元利金
合 計	一、六〇七、三九六	

(備考)

昭和十七年度以降ニ於テ特ニ考慮シタル事項左ノ如シ
 一、一般會計ノ支出ニ於テ増減スヘキモノ左ノ如シ

1 創立三十周年記念式費二五〇〇〇圓

十七・十八兩年度共不要ニ付計算ニ加ヘズ

2 借入金償還ハ昭和十六年度^ニ五二〇圓ナルモ

昭和十七年度 四〇五二〇圓

同 十八年度 三九六二四圓ヲ要ス

3 醫療並助産本會取扱者ハ要保護人員ニ對シ

昭和十七年度 二分ノ一

同 十八年度 (以降) 三分ノ二ヲ見込ミタリ

4 爾他團體補助金ハ昭和十六年度ノ程度ニ計上シタリ

5 有償診療收入ハ診療施設ノ擴充ニ伴ヒ幾分ノ增收ヲ見込ミタリ

昭和十八年度收支見込額

収入ノ部

種目	金額	摘要
基金及資金收入	七九一、三四八	基金及地方資金利子收入
少額自辨其他診療收入	二、五五九、〇六八	<p>第二種カード所屬本會救療人員ノ三分ノ二ヨリ一日五錢（救療日數平均二十日）宛</p> <p>第三種カード所屬本會救療人員ヨリ一日十錢（救療日數平均二十日）宛ノ少額ヲ自辨セシム</p> <p>第二種カード所屬本會助産人員ノ三分ノ二ヨリ助産一回壹圓宛</p> <p>第三種カード所屬本會助産人員ヨリ助産一回貳圓宛ノ少額ヲ自辨セシム</p> <p>此ノ收入 二一八、三一、九五円</p> <p>他ニ</p> <p>有償診療收入 三六六、二二三円</p> <p>受託診療收入 九六、五〇円</p>

恩賜 簿 主 會

御下賜金	40000	
國庫補助金	5474161	<p>醫療及助産費（有償及受託診療費ヲ除ク）ヨリ少額自辨收入ヲ差引キタル本會純負擔額 9384282円ノ十二分ノ七相當額</p>
地方費補助金	2427631	<p>國庫補助金對象額ノ四分ノ一相當額 他ニ 2346071円 爾他團體補助金 81560円</p>
經費補充積立金並地方資金繰入	2073588	
寄附金	1999500	
其他ノ收入	17899	<p>雜收入其他收入</p>
合計	14373155	

支出ノ部	種目	事務費	金額	摘要
	救療費		二五三一一六	本部及支部事務費
			一一、九四三、三三〇	<p>(醫療)</p> <p>要救療人員三三、五九六ニシテ内本會救療人員 (要救療人員ノ三分ノ二相當數)三、一四三、九七 右ニ對スル醫療費一人當平均五圓宛ノ積算額 一一、〇七一、九八五円</p> <p>(助産)</p> <p>要助産人員二、三八七ニシテ内本會助産人員 (要助産人員ノ三分ノ二相當數)八、二五八ニ 右ニ對スル助産費一人當平均六圓宛ノ積算額 四、九五四、九二円</p> <p>他二</p> <p>有償診療 三、六六二、二三円 受託診療 九、六五〇円</p>

恩賜 濟生會

看護婦養成所費	31,030	
特設機關新設擴充、設備費	1,332,283	福岡縣外三十府縣特設機關新設擴充設備費
訪問看護施設擴充費	69,000	
產院擴張並附屬產婆養成所費	89,448	
經費補充積立金並地方資金編入	63,330	次年度ノ年度當初數ヶ月間ノ支拂準備金ニ充當
借入金償還	39,624	芝病院及看護婦養成所建築費借入金償還元利金
合計	1,437,715	

號 二 一

保存期限

三年

決裁指定

決行指定

政務次官
回付

決裁後
連帶
課名

拾年保

決行(決裁)後
回覽課名

受領
番號

壹等五三七九號

起元廳(課)名

日立製作所

件名

泰國鐵道委託留學生、日立製作所、釜山工場
見等ノ件

大臣
委

次官
委

政務
次官

參與官

書記官

審案
筆者

主務
局長

高級
副官

主務副官
官房御用掛

主務
課長

主務課員

主務局
受領
昭和 年 月 日
提出
昭和 年 月 日
昭和拾玖年拾月廿貳日

連帶
局長

防衛
長課
裁裁

大臣官房
受領
昭和 年 月 日
了結
昭和 年 月 日
十月十日

決行(決裁)後
回覽

局長

長課

三

五

陸普

副官より株式会社日立製作所釜石工場
代表者工場長三井田誠ニ宛回答

(兵器本部經由)

十月六日附笠庶第八二六號ノ二首題ノ件
願出ノ通許可セラレ候條及回答候也

陸普第七八二五號

昭和六年十月廿三日

副官より憲兵司令部本部部長宛

本件~~左~~左記ニ依リ許可セラレタルニ件通報ス
首題一件左記

一見學者

陸軍

泰國鐵道委託留學生（目下鐵道省大宮工場ニ於テ
車輛関係技術實習中）

ブンスム、ウイエンラボー（三七オ）

二見學目的

泰國註文ニ係ル機關車落成状況見學ノ為

三見學期日

十月下旬又ハ十月上旬ノ豫定



陸普第七八二五號

昭和拾六年拾月廿五日

陸軍省 第一五七九

笠原第二六號號子ニ

小倉陸軍造兵廠經由
陸軍兵器本部經由

外國人工場參觀ナシメ度件願

昭和十六年十月六日

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

今般當工場ニ於テ受註製作中ノ泰國機關車落成ニ付之ガ状態見學ノ爲
左記ノ通り參觀ナシメ度ニ付御許可相成度別紙泰國大使館ノ身分證明書
相添此段奉願候也

左記

一 參觀者ノ国籍 泰國

二 參觀者ノ身分又ハ職業氏名

泰國鐵道委託留學生

Boonsarn Vientavi (大正四年十一月三日生)

兵器本部	昭和十六年十月六日
經由第九二四號	



山口縣下松市大字東豊井第七九四番地
株式会社日立製作所笠戸工場

代表者 工場長 三井田 誠

三 參觀ノ目的
 四 同 期間
 五 同 範圍

泰國機關車落成狀態見學ノ爲
 未定 (昭和十六年十月下旬又ハ十一月月上旬ノ予定)
 弊工場内ノ鑄工場、鍛工場、製鐵工場、機械工場、組立工場、
 客貨車工場トス

六 其ノ他参考事項

一 參觀希望者ハ昭和十五年桐生高等工業學校機械科ヲ卒業シ泰國鐵道委託留學生トシテ
 目下鐵道省大宮工場ニ於テ車輛關係技術實習中ノモノナリ
 二 參觀日時ノ未定ナルハ現在製作中ノ機關車落成ノ日時ガ未定ノタメナリ

一 參觀許否ニ對スル小倉陸軍造兵廠ノ意見

陸軍關係發註品ナシ

參觀 差支ナキ意見

二 兵器本部ノ意見

当部トシテハ發註品無シ付

參觀ニ就テハ差支ナキ意見

尚工場利用率ハ (現在陸軍利用セズ)
 本年七月一日現在ニ海軍三%、官廳
 (鐵道省) 五三%、民需四四%ナリ
 昭和拾六年拾月拾四日

陸軍兵器本部

昭和十六年





ROYAL THAI EMBASSY,
TOKYO.

To whom it may concern,

This is to certify that Mr. Boonserm Vienravi, a Thai subject, arrived in Japan in July 1935. He entered the Kiryu College of Technology in April 1937 and was graduated from the said College in March 1940.

The said Boonserm Vienravi was enrolled as student of the Royal Thai Railway Department since July 1939.



The Thai Embassy,
Sept. 28th, 1941.

寫

添書

陸軍

バンソム ウイエンラビー

(大正四年七月三日生)

右八昭和十五年桐生高等工業學校機械科ヲ卒業シ泰國鐵道委託留學生トシテ
目下鐵道省大宮工場ニ於テ車輛関係技術實習中、モニ有之、今回株式會社日之
製作所並ニ工場ニ於テ製衣作中、泰國ヨリ發註機關車落成ニ付其狀態等見學
ノ為工場へ立入り致度者ニ有之候ニ付立入許可方御配慮願度候

昭和十三年九月二十六日

鐵道省工作局長

德永 普作

小倉陸軍造兵廠長

吉田智運 殿

陸 第五三九

笠庶第八二六號ノ五

小倉陸軍造兵廠經由
陸軍兵器本部經由

泰國人當工場參觀實施狀況ノ件報告

昭和十六年十一月十四日

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

昭和十六年十月二十三日付陸普第七八二五號ヲ以テ御許可相受ケ候
題ノ件左記ノ通實施セシメ候條此段及御報告候也

山口縣下松市大字東豊井第七九四番地
株式會社日立製作所笠戸工場
代表者 工場長 三 井 田 誠

兵器本部	昭和十六年十一月五日
經由第九九六號	



15319

左

一 參觀 日 時

貴客又ハ...

二 參觀者ノ國籍、身分
又ハ職業、氏名

記

昭和十六年十一月八日
自午前十時一分
至午後一時一分
工場應接室

自午後一時一分
至同二時十分
試運轉現場

自午後二時十五分
至三時一分
工場參觀

自三時五分
至三時四十分
工場應接室

泰 國

鐵道委託學生
ワンソン・ウエンライ
BOHSEIN VIENTHANA

大正四年十一月三日生

立會者ノ身分又 ハ職業、氏名	案内者若ハ説明者ノ 身分又ハ職業、氏名	見學セシ工場名
<p>鐵道省工作局車輛第二課</p> <p>鐵道技師 岡田正次氏</p> <p>鐵道技手 久保田治雄氏</p> <p>同 需品局需品第一課屬 村磯賢隆氏</p> <p>三井物産株式會社機械部 冷泉弘氏</p>	<p>株式會社日立製作所笠戶工場</p> <p>技術部長 上山義一</p> <p>設計課長 兼清隆二</p> <p>設計課員 林厚生</p>	<p>機械工場 {自午後二一五 至、二二〇} 客貨車工場 {自午後二四二 至、二五一}</p> <p>組立工場 {自、二二二 至、二三一} 鑄工場 {自午後二五六 至、二〇〇}</p> <p>製鐵工場 {自、二三四 至、二四〇}</p>

六 參觀者ノ著眼及
應答事項

一 參觀者ノ著眼 特記スベキモノナシ

ニ 應答事項

イ、機關車試運轉現場ニ於テ

ウシソソソ「コレガバシフイツク」形機關車カ」

工場側「左様、コレガ第二輛目ナリ」

ウシソソソ「鐵道省D五一形ト同シ位カ」

工場側「大略同ジ位ノ大キサナリ」

ウシソソソ「前回ノタイ國ミカド形機關車トハドウカ」ト

工場側「前回ノモノト殆ンド同ジ大サダ」

工場側「タイ國デ使用スル新ノ大サハ如何」

ウシソソソ「大サハコレ位チ長サハ腕ノ長サノ半分位チ、
材質ハチ「少」チハナイ」

ウシソソソ「逆轉器ノハンドルガ少シカタイ様ダガ如何」

工場側「コレハ少シ馴レ、バ輕クナル」

ヴンソン「灰ハ何チ落スカ」

工場側「手デカキ落ス」

ヴンソン「灰箱灰戸ノ取手ハドレカ」

工場側「灰戸ノ取手ハコレデ、風戸ノ取手ハコレダ」

ヴンソン「鐵道省ノ様ニ拵火槍子デハナイノカ」

工場側「薪焚ダカラ拵火槍子デハナイ」

ヴンソン「（機關車昇降口指サス）コノ入口ハ少シ狭イ

様ダネ」

工場側「左様、同感ナリ」

ヴンソン「コノ水撒コツタノハンドルハ昇降ノ邪魔ニナ

ル」

工場側「左様、昇降ノ際ニハ注意ヲ要スル」

ヴンソン「笛ガニツアルノハ如何」

工場側「高音ト低音デタイ國ノ註文使様ニヨルモノナ

リ」

六 參觀者ノ着眼及
應答事項

ヴンソン「(炭水車水取口指サス)コノ水取口蓋ニハ蝶
番ハナイノカ」

工場側「左様、單ニ嵌込ムノミダ」

ヴンソン「(眞空制動ホース肘接手指サス)コノ接手指ニ
ハナツトヲ使用スルノカ」

工場側「ネチ込ミダカラナツトハ不要」

ヴンソン「(同右)コノ接手指ハ鑄物カ」

工場側「左様」

ヴンソン「(炭水車道具箱指サス)コノ箱ハ何カ」

工場側「コレハ道具箱ダ」

ヴンソン「(炭水車軸箱指サス)コノ軸箱ノ蓋ハ簡單ニ
外レナイガ如何」

工場側「コレハ泰國ノ標準品ナリ」

ヴンソン「(同右)コノ油受パツドハ省式デハナイガ如
何」

工場側「コレモタイ國ノ標準品ナリ」

ヴンソン「(同右) コノパツドノ予備品ハ附屬スルノカ」

工場側「予備品ハナイガ貨車ニ使用ノモノト同一ナリ」

ヴンソン「(從臺車軸箱指サス) コノ軸箱内ノ油ハ少イ

様ダガ如何」

工場側「左様、少シ少イ様ダ」

ヴンソン「(機關車辨裝置指サス) 辨ノ調整ハ鐵道工場

ト同一カ」

工場側「然　　リ」

ヴンソン「(主連棒油壺指サス) コノ油壺ノ蓋ハ密接カ」

工場側「然　　リ」

ヴンソン「(シリンダ蓋被指サス) コノシリンダ蓋被ト

シリンダ被トノ間ニスキマガアルガ如何」

工場側「コレハ後刻手直シスルコトエナツテキル」

ロ、工場案内途中ニテ

ヴンソン「(機械工場ニテ指サス) タイヤ機架ノ温度ハ

何度カ」

工場側「二〇〇度位ナリ」

六 參觀者ノ着眼及
應答事項

(行武等)

七 感想

ハ其ノ場等ニ在リ

工場側「(組立工場ニテ指サス)コレガ第三及ビ第四號
目ノ臺件デ目下組立中ノモノナリ」

工場側「増乗中ノ製鐵工場ニテ指サス)コレガ第一號目
ノ機關車デ目下重量測定中ノモノナリ」

工場側「(製鐵工場ニテ指サス)コレガ第四號目ノ汽爐
ナリ」

工場側「(客貨車工場ニテ指サス)チークノ材料ハナイ
カ」

工場側「チークハ日本デハ貴重ナ材料ダカラ倉庫ニ納
シテアル」

ヴンソンハ鐵道委託留學生ナルモ鐵道車輛ニ關シテ
ハ特ニ深キ智識ヲ有シ居ラザルモノ、如ク、上記以
外ノ質問ハ發セス、殊ニ應接室ニアリテハ殆ンド發
言セズ、工場ノ施設其他ニ關スル質問悉クナク極
テ皮相ナル參觀ヲナシタルニ過キザリキ

ハ其ノ他参考事項
 (來訪ノ経路及
 行先等)

六 總 務 課
 警 備 課
 警 備 課

ヴンソン十一月六日午後十時十分東京歸發列車ニテ
 鐵道省工作局車輛第二課鐵道技師岡田正次氏外三名
 ト共ニ西下十一月七日午後五時三十二分徳山驛着
 直ニ同市松政旅館ニ投宿一泊、翌八日午前九時十五
 分徳山發列車ニテ同九時二十七分下松驛着自動車ニ
 テ同九時五十五分工場ニ到着セリ
 更ニ前掲ノ通り參觀ヲ了シ午後三時四十分工場ヲ退
 出、午后四時九分下松驛發列車ニテ徳山市ニ向ヒ松
 政旅館ニテ休憩、同夜午後七時五十二分發列車ニテ
 歸京セリ

工場(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (一百)

第一三三號

保存期限 三年
 決裁指定
 局長委任
 決行指定

房官臣大		課局務主		番號	監第二三八號	大臣 委	政務 次官 王 藤 二 一 三 號	參與官 申 前 八 號	書記官	審案 筆者	
了結	領受	出提	領受								昭和三十二年十月十日
昭和三十二年十月十日		昭和三十二年十月十日		昭和三十二年十月十日		昭和三十二年十月十日		昭和三十二年十月十日		昭和三十二年十月十日	
(裁決)行決		帶		連		局長		局長		局長	
局長		局長		局長		局長		局長		局長	
局長		局長		局長		局長		局長		局長	

受領番號 壹第五六一六號
 起元應(課)名 日本赤十字社
 件名 日本赤十字社岩手支部病院看護婦寄宿舎
 病棟増築其ノ他設備ノ件

政務次官
 參與官
 回付
 決裁前後連帶
 醫
 拾年保

決行(決裁)後
 回覽課名

左
 電

陸軍省

陸軍大臣ヨリ海軍大臣へ協議

首題ノ件認可致度協議ス

追テ異存無之ハ指令方取計相成度

陸普第八六四七號

昭和拾六年十月廿四日

(別紙指令案)

陸、海軍大臣ヨリ日本赤十字社社長へ指令

十月三十一日附經主第二一三號申請ノ通認可ス

陸普第八六四八號

昭和拾六年十月廿四日



日本赤十字社支店
支店長 支店長 支店長

陸軍省 第六一六號

日本赤十字社



陸軍 領 壹第 五六二六

經主第 〇〇五 號

昭和十六年十月三十一日

日本赤十字社社長 公爵 德川 圀 順

陸軍大臣 東 條 英 機 殿

海軍大臣 嶋 田 繁 太 郎 殿

日本赤十字社岩手支部病院看護婦寄宿舍、病棟増築其ノ他
設備ノ件

申 請

本社岩手支部病院ニ於テ看護婦寄宿舍及病棟増築其ノ他設備ノ必要
ヲ生シ別記ノ通り其ノ完成ヲ期スル次第ニ候
右事業設備ノ件御認可相成度此段申請候也

日本赤十字社



一、申請者ノ住所氏名

記

東京市芝區芝公園第五號地壹番

日本赤十字社

二、事業設備ノ擴張ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並資金ノ調達方法

事業設備ハ日本赤十字社岩手支部病院附屬看護婦寄宿舎ノ移轉並ニ新築及附屬病舎ノ新築擴張セントスルモノニシテ看護婦寄宿舎ハ支部構内ニ移轉新築シ其舊看護婦寄宿舎跡ニ附屬病舎ノ新築擴張セントスルモノナリ

其ノ豫算ノ大要

建築費

七八九四三圓

設備費

三三三〇圓

雜費

二、七三七圓

計

八五〇〇〇圓

資金ノ調達方法

支部病院常備資金繰入

三、事業設備ノ擴張ヲ必要トスル事由

現在當病院ノ機能ノミヲ以テシテハ狹隘ニシテ到底其ノ需用ヲ充
タスコト不可能ナル所ニ一般患者益々多キヲ加ヘ建物設備ノ改善
ヲ要スルコト最モ急務ニ付此際新設ノ上之カ完遂ヲ期セントス

一、土地

一、所有地

日本赤十字社岩手支部病院

二 建物其他ノ工作物

種別別構	造棟数	延坪	坪單價	建設費	資材名	数量	價格	所要時期
病室 木造三階建 一部平屋建	一	一八八.七五	約一九四.〇〇	三六七八三五	鋼材	五六七枚	三七四.三〇	昭和六年十月
寄宿舍 木造平屋建	一	一〇〇.〇〇	四六.〇〇	四五〇.〇〇	鋼材	五枚	三二〇.〇〇	
寄宿舍 木造平屋建	一	一九八.五〇	一六四.〇〇	三二二二〇	鋼材	四〇枚	二六四.〇〇	
					釘	六〇枚	二〇四.〇〇	
					セメント	一三袋	一六九.〇〇	
					釘	一五枚	五一.〇〇	
					巨鉛引絞	一枚	一六.〇〇	
					セメント	三〇袋	三九〇.〇〇	
					釘	六四三枚	二二八.二八	

日本赤十字社岩手支部病院

		寄宿舍改修場						瑞雲寮改修場						婦寮便所						計									
		一部二階建																											
		一						一						一						一									
		一〇五、五。						四二、二五						五、						五、									
		六五、						五三、						八〇、						八〇、									
		六八五、五						二三九、五						四〇、						四〇、									
セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘	セメント	鋼材	釘
一七五	一六〇	三二五	一三六	六三	八五	六	六三	八五	三二六	六三	六	六三	六三	八五	一〇六	二	五	一〇六	二九七	六六	一〇六	二九七	六六	一〇六	二九七	六六	一〇六	二九七	六六
二二七、五〇	一〇五、六〇	一〇七、一〇	一六三、八〇	四、五八	二八、九〇	七、八〇	四、五八	二八、九〇	一六三、八〇	一〇七、一〇	一〇五、六〇	一〇七、一〇	一六三、八〇	四、五八	二八、九〇	一三、二〇	一、七〇	一三、七八	七九〇、二〇	五、五〇	一三、七八	七九〇、二〇	五、五〇	一三、七八	七九〇、二〇	五、五〇	一三、七八	七九〇、二〇	五、五〇
一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇	一六〇、〇〇

日本赤十字社岩手支部病院

日本赤十字社岩手支部病院

附屬工事費	二一〇、〇〇〇						
給配電		鉄管	一五〇	七五、〇〇〇			
設備		鉄管	一五〇	七五、〇〇〇			
計	二一〇、〇〇〇						
設備費	三三、〇〇〇						
寢台寢具 家具其他	四三、〇〇〇						
計	三三、〇〇〇						
雜費	五、三〇〇						
合計	八五、〇〇〇						

六、着工及竣工ノ時期並ニ操業開始ノ時期

着工豫定

昭和十六年十一月

竣工豫定

昭和十七年二月

操業開始豫定昭和十七年三月

閣

監查
車

陸軍省
第一

官房第六二七九號ノ二

昭和十六年十二月四日

海軍省
昭和十六年十二月五日
16.12.5.
陸軍大臣

陸軍省
16.12.5.
監査課

ナカセトヤ

陸軍大臣 東條英機 殿
海軍大臣 嶋田繁太郎

日本赤十字社岩手支部病院看護婦寄宿舎病棟増築其ノ他設備ノ件回答

本件ニ關シ陸普第八六四七號ヲ以テ照會ノ趣了承異存無之候條陸普第八六四八號指令ニ捺印ノ上日本赤十字社へ交付方取計候

(終)

海軍

5616

1121

副官より東部軍參謀長宛通牒案

陸普

首題ノ件ニ関シ早稲田大學總長ヨリ別紙ノ通牒出ス
リタルニ付軍務ニ支障ナキ範圍ニ於テ貴軍ニ於テ
實施方可然取計ハレ度依命通牒ス

陸普第九〇〇八號

昭和拾六年三月八日



大引

本

此ノ紙ハ陸軍省一海軍省ニ送ル事

陸軍省一海軍省ニ送ル事

陸軍省一海軍省ニ送ル事

陸軍省

陸軍省

六三三八



軍事研究件願

昭和拾六年拾壹月貳拾八日

早稻田大學總長

田中穗積



陸軍大臣 東條英機殿

早稻田大學高射砲隊ハ昭和拾四年七月創設
以來高射砲ニ就テノ一般基本訓練ヲ受ケ
今日ニ至ルモ今々時局益々重大ノ秋ニ鑑ミ
土曜日曜休暇等ノ學業ノ餘暇ヲ利用シ更ニ
高度技術ヲ習得スルト共ニ軍隊精神ノ
涵養ニ勉メ以テ國防ノ端ヲ擔ハシコトヲ痛感

一月廿七日



致シ居リ候間軍事研究ノ件御許可相成度
此段願上候也

記

- 一、希望教育擔任部隊
- 一、隊員氏名
- 一、名稱

別紙

早稻田大學高射砲隊

東不市一軍
スル如ク外
理有可成度

